

ISSN 0910-2396

# 野鳥たより

—北海道—

第 72 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 昭和63年6月21日



クロツラヘラサギ 撮影者 笹浪 甲衛



## もくじ

野鳥メモリアル	泉屋恵津子	2
ヤチダモ防風林へ鳥散布された樹種について	斎藤新一郎	3
クロツラヘラサギの本道初記録について	三浦二郎	4
訪れる野鳥による自然の保存状態判定の試み	田辺 至	5
昭和63年度総会報告		6
札幌市内でインヒヨドリ観察	白澤昌彦	7
探鳥会報告		8
探鳥会案内		12
鳥民だより		12

## 立春の踏む人ぞなき、小路ゆく

～野鳥メモリアル 四季の鳥達のこと～

泉 屋 恵 津 子

春三月藤野に住んで十八年、季節に訪れる小鳥達を会えるはずの小鳥達のことを、又きっと会えると、待ち遠しく思いめぐらす此の頃です。

私はずっと病いに伏しておりましたが、過ぎ去りし日々の追想はつきることなくなつかしい思い出にひたる日々が続きました。

真冬日、農道をトド松の下をくぐっておる時、目の高さの枝にあうことが出来たキクイタダキの愛くるしい姿、春ほのぼのと若葉もゆる頃、西隣の落葉松林に毎年一羽のクロツグミが、高い梢で朝日を浴びて高い声でなわばりを放って鳴きつづける。早朝から夕暮れまで、とにかく鳴きつづけるクロツグミ、白い胸に黒い斑点の前だれをふくらませ、なっていたこと。私は去年リハビリがない日曜日毎に藤野の家に帰っていました。

しかし、去年の春はクロツグミは来ていなかった。今年はどうかしら、鳴いてくれるかな、コバルト色の空、萌黄色の春、しなやかな春風にさそわれて、道端にエンゴサクが咲いていたよ。と病室を訪れた彼が、私に告げてくれた。二た春目の四月末、日曜日毎に二人で早朝からバードウォッチングに出かけた日々が懐しい。いとおいしい小鳥達のこと、野の花との語らいを忘れることは出来ません。

でもこの春、三春目を迎えもう私は追憶にひたって暮れてはいない。暖かくなったら、主人と鳥に会える思い出の場所へつえをついて出かけます。

野鳥愛護の仲間にもお逢い出来るでしょう。野幌公園、西岡、円山、石狩、ウトナイ湖へそして福移のバードウォッチングではホホアカ、ベニマシコ、シマアオジ、オオジュリン、オオヨシキリも鳴いていた。

植苗の無人駅に降り立って、ベニイチヤクソウを道端に愛でて、白スミレの原野、コヨシキリ、ノビタキと遊び、越冬してなぜかシベリヤへ帰らずにウトナイ湖に卵を抱いてしまった白鳥の親子にも会えた。

米里でノゴマ、アカモズ、アリスイみんな会いたい小鳥達に私は会いに出かけます。夏も近づく八十八夜、七月、うの花、うつぎの白い花が垣根をにおわす頃、藤野の東の林に夕闇せまる頃、エゾセンニュウが夜毎鳴きはじめます。

やぶの暗やみの中からトッピンカケタカと夜通して鳴きつづけます。東の空が曙にそまり、朝もやの中から鳴き疲れたかすった声で、とぎれとぎれトッピン、トッピン、カケ、タカ、と消えていきました。お盆近い宵のことでした。やっぱり去年は鳴きませんでした。今年は鳴いてくれるかなと期待しています。

この間まで銀色に光っていたネコヤナギが、あんなに黄色い花粉の花で屋根の上でゆれています。

ヒガラが思いっきりさえずって春のいぶきをまきちらしてもうすっかり春の訪れです。南から渡ってきた春鳥のアオジがつがい、カゲロー立つ土の上に舞いおりて冬鳥のシメの夫婦が北国へ帰らなければと春曇りの空を見上げています。

きのうの春雨で藤野の雪の高さもだいぶん低くなりました。

毎日、二十数羽のアトリの群がにぎやかです。今ヒレンジャクの群が十羽ほど時折舞いもどり、餌台を乱舞しています。

昭和六十三年四月十三日

# ヤチダモ防風林へ鳥散布された樹種について

齋藤 新一郎

森林が成立する条件は、いくつかあるが、母樹群からタネ（散布体、種子そのものとは限らない）が散布されてくることも重要なものである。そして、このタネ散布における、鳥類の役割りが知られている。とくに、孤立林においては、哺乳類と比較して、鳥類の役割りが大きい、と考えられる。

平地における孤立林の変遷について、筆者は興味をもっている。今回、耕地防風林に多種の樹木が侵入し、生育している1例を観察して、鳥散布についての記載をすることにした。耕地防風林は、農業にとって重要なばかりでなく、風土の一部であり、野生生物の住み家や道路としても大切なものである。探鳥会において、鳥そのものを観察するほかに、鳥の動きをも知ることが望まれる。

## 防風林の林床の木本

観察した防風林は、約30年生のヤチダモ主体のもので、ほぼ東西方向に走り、幅が35mほどであり、石狩平野の一角、南幌町川向地区にある。水稻を南寄りの風から保護する目的で造成され、約6000本/haの密度で植栽され（列間が1.8m、苗間が0.9m）、15年目に約50%が間伐されて、現在、高さが9~11m、胸高直径が8~15cmとなっている。

この林床には、ヨシ、ワラビ、ヨツバヒヨドリ、セイタカアワダチソウなどの大型草本が生育している（草丈が100~130cm）。そして、木本が侵入し、定着しつつある。高さ2m以上の樹種は、ヤマグワ、エゾニワトコ、ネグンドカエデの3種であった（図-1）。けれども、これら以外にも、数種の若木や実生が生育していた。

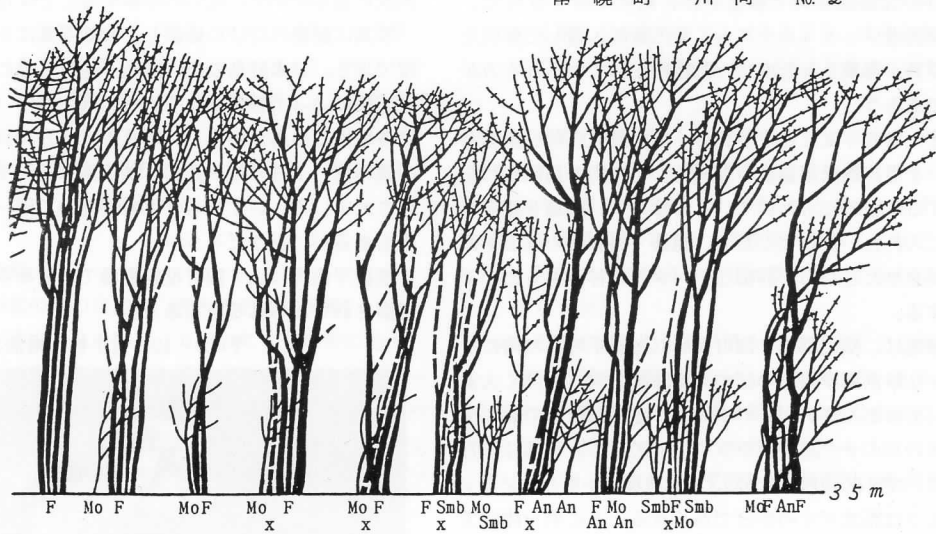
## 被食型の鳥散布

林床に観察された木本は、9種であった。これらを生活形やタネの形態で整理すると、表-1のようになる。

9種のうち、8種までが多肉果をつけ、被食型のタネ散布に適応しているものである。山地の森林から遠く隔離された防風林であるので（かつては、泥炭湿地であった）、これらの大半は鳥類によって運ばれてきた、と推察される。エゾニワトコ、エゾイボタ、ナワシロイチゴなどは、路傍の母樹も考えられ、ネズミ類による散布も可能性がある。ナナカマド、クロスグリ（グースベリー）などは、農家の屋敷林から運ばれたのであるかもしれない。

唯一の例外のネグンドカエデ（トネリコバノカエデ、北アメリカ産）は、近くの屋敷林から風散布されたので

南幌町 川向 No. 2



ヤチダモ植栽  
樹種 F ヤチダモ Mo ヤマグワ Smb エゾニワトコ An ネグンドカエデ

図-1 ヤチダモ防風林の横断面図（風下側）

あろうが、イタヤカエデ、ミネカエデのような事例もあるから、動物による貯食型の散布も否定できない。

平野のなかの防風林は、鳥類の繁殖、休息、ねぐら、えさ場などとして重要な場所である。そこに多肉果をつける樹種のタネが運ばれてきて、発芽し、生長して、定着してゆく。

今日の耕地防風林は、その防風機能の向上、安全な更新、複層林化などが課題となっている。鳥散布された、これらの樹種は、ヤチダモ単純林をより健全なものにする、と考えられる。このような自然力の活用が、防風林の施業にも取入れられる日も、それほど遠い未来ではなさそうである。

参考文献

小川 巖ほか、1988. 森と私たち—北海道自然保護読本. 227pp.,北海道自然保護協会、札幌.  
 斎藤新一郎、1986. 孤立林における動物(鳥)による木本種子の散布について. 日生態自由集会・森林の更新過程(7), 昭61: 1~2.

表-1 ヤチダモ防風林に侵入した樹種と散布者

生活形	樹種	タネの形態	散布者
高木	ナナカマド	多肉果(なし果)	鳥*
	ミズキ	“(核果)	“
	キハダ	“(みかん果)	“
小高木	ネグンドカエデ	乾果(翼果)	風**
	ヤマグワ	多肉果(くわ果)	鳥*
低木	エゾニワトコ	“(液果)	“
	エゾイボタ	“( ” )	“
	クロスグリ	“( ” )	“
小低木	ナワシロイチゴ	“(きいちご果)	“

\* エゾアカネズミ, エゾヤチネズミ, ほかの可能性もある。

\*\* ミヤマカケス, エゾアカネズミ, ほかの貯食型散布の可能性も否定できない。

〒079-01 美咲市峰延町本町北2

クロツラヘラサギの本道初記録について

三 浦 二 郎

クロツラヘラサギの本道初渡来については、昨年4月4日付の北海道新聞で報道され、更に6月4日付で、「道新読者フォトコンテスト」で三席に入選した鮮明な同じ写真が掲載されたので、記憶に止めておられる方が多いであろう。

たまたま昨年度は道庁委託の「松山道立自然公園総合調査」を道自然保護協会が受託し、その内の鳥類部門を担当することになったので、この珍しい記録を報告書の中に入れていということで、観察・撮影者の笹浪甲衛氏に問合せたところ、詳細なデータの送付があったので紹介する。

観察地は、松山郡上ノ国町大崎(洲根子岬)の南になだらかな砂浜海岸線をのぼす大安在浜の河口を開く大安在川(おおあんざい川)の中洲と、上ノ国市街の北に流れる天の川のサケ捕獲用ウライ付近である。初認は3月30日で、大安在川中洲の先に、電気洗濯機か車のボンネットのような粗大ゴミのかげでかくれるように羽を休めていたらしい。この日は雪で、翌31日も同じ場所にいたが、カラスにちょっかいを受けていた。

4月1日から4日まで所在が確認できないでしたが、4月5日から7日まで、天の川のサケ捕獲用ウライに休

んでいるのが観察された。この時はウミネコ3~4羽と列状に並んでいて、互いに干渉することはなかった。

写真は観察のたびに撮影し、表紙写真はそのうちの1枚である。日本野鳥の会「野鳥」誌11月号に函館市吉田省三氏によって報告されている。尚、昨年(昭和62年)は各地にこの鳥が出現し、12月号で5月30日富山県新湊市越の瀧、1月号で8月20日秋田県八郎瀧での観察が報告されている。いずれも日本海側なので同一個体の可能性もあるが、どうだろうか。

笹浪甲衛氏は上ノ国町役場勤務で、植物写真を熱心に撮影されておられる由である。

〒059-12 苫小牧市樽前394-1003



# 訪れる野鳥による自然の保存状態判定の試み

田 辺 至

## 1. はじめに

わが町内（美唄市街）とわが職場（奈井江市街）を訪れる野鳥の記録を整理しながら、次のような試みをしてみました。もちろん、町内の自然環境を判定する科学的・客観的な資料にはなりません、訪れる野鳥で町内やわが家の庭の自然の保存状態を判定するのも一興ではないかと思ひ試案を提出します。すでにもっと優れた案が発表されているかも知れませんが、又経験豊かな人々がより妥当な案を出してほしいと思ひ問題提起の意味で発表します。

## 2. 自然の保存状態（仮に自然度とする）判定の指標

自然度 1：自宅及び近所では野鳥をみかけない。

自然度 2：自宅及び近所でスズメ、カラス、ドバトしかみかけない。

自然度 3：上記の自然度2の鳥の他に、シジュウカラ、ヒヨドリ、カワラヒワ、キジバト、ムクドリ、トビ、セキレイをみかける。

自然度 4：上記自然度2、3の鳥の他に、ツグミ、アトリ、シジュウカラ以外のカラ類、モズ、カケス、レンジャク、キツツキ類をみかけ、ヒバリやカッコウの声がきかれる。

自然度5：上記の鳥の他に、山野の鳥、水辺の鳥が多種類訪れる。

## 3. 1つの例

### (1) 我が家の庭の自然度（訪れた野鳥の記録）

我が家はJR美唄駅より歩いて5分の所にあり、イボタの生垣でかこった猫の額程の庭があり、バーベキューテーブルはありません。近くにお寺の木立があります。シメ、キジバト、ムクドリ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ドバト、スズメ、カワラヒワ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カケス、トビ、上空をハクチョウ、ウ、マガンが通過し、カッコウやヒバリの声がきかれます。（計19種）。

上記の判定基準にてらすと自然度3～4（田舎度

3～4）になります。

### (2) 職場の庭の自然度

私の職場はJR奈井江駅より歩いて13分の所にある学校で、約2km先に広大な山があり、前庭（面積1500㎡、450坪に、高さ10m位のカエデやイチイの木が20本ある）にきた野鳥の4年間の記録です。ハクセキレイ、セグロセキレイ、ツメナガセキレイと思われる個体、ドバト、ハシボソガラス、ハシブトガラス、スズメ、イカル、アトリ、ムクドリ、カワラヒワ、シメ、キジバト、アリスイ、モズ、ヒヨドリ、トビ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ノスリ、ハイタカ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ハシブトガラ、コガラ、アオジ、ツグミ、クロツグミ（♀の死体）、カケス、アカゲラ、コゲラ、キレンジャク、ヒレンジャク、ギンザンマシコ、エナガ、上空をハリオアマツバメ、マガン、ハクチョウが通過し、カッコウやヒバリの声がきかれます。（計39種）

上記の判定基準によると自然度5になり、我が職場は自然に恵まれた立派な田舎であります。

休み時間には双眼鏡をのぞいて前庭の野鳥をみつける楽しみがあります。（ときどき、本校生をねらってくるピーマン族の車をみつけることもあります。）

## 4. この案の問題点

(1) カケスが何故自然度4の鳥なのか理由が分らない。他の指標の鳥についても同じことがいえます。

(2) 5段階評価ではなく3段階評価にしてはどうか。

(3) 野鳥だけで自然の保存状態を判定するのは無理ではないか。

(4) 町内の自然の保存状態を野鳥で判定する他に、昆虫や野草で判定することもできると思ひます。

（注：「自然度」という語は辞書にはありません。よいネーミングがありましたらお教え下さい。）

〒072 美唄市西1条南5丁目

# 昭和63年度 総会報告

と き 昭和63年4月16日(土)午後2時～4時

ところ 札幌市民会館

小堀代表幹事の開会のこと及び菅野会長のあいさつ  
のあと、議長に野村梧郎氏を選出し、審議が行われ原案  
通り可決された。

<議事>

## 1. 昭和62年度事業報告

(総務)

(1) 新年懇談会の開催(63.1.23 札幌市婦人文化センター)

(2) 野鳥写真展の開催

\*たぐぎん自動サービスフロア(62.4.20～5.2)

\*三菱信託銀行駅前支店 (62.5.11～5.22)

(3) 定例幹事会の開催(5月を除き毎月1回開催)

(4) 野鳥だよりの発送(68号～71号)

(5) 障害保険の更新

(6) 「私たちの探鳥会-探鳥会17年の記録」の出版

(探鳥)

探鳥会の開催(16回)

(広報)

野鳥だよりの発行(68号～71号)

アンケート調査の実施

## 2. 昭和62年度会計報告

別表のとおり

## 3. 昭和62年度会計監査報告

大坊監事から適正に執行されている旨の報告があった。

## 4. 昭和63年度事業計画

(総務)

(1) 新年懇談会の開催(1月中)

(2) 野鳥写真展の開催

\*たぐぎん自動サービスフロア(63.5.2～5.16)

\*三菱信託銀行札幌支店 (63.5.17～5.28)

(3) 定例幹事会の開催(毎月1回ただし5月を除く)

(4) 野鳥だよりの発送(72号～75号)

(5) 「私たちの探鳥会」出版記念式

(6) 傷害保険の更新

(探鳥)

探鳥会の実施(16回)

(広報)

野鳥だよりの発行(72号～75号)

## 5. 昭和63年度予算

別表のとおり

## 昭和62年度決算書

### (収入の部)

区 分	決算額(A)	予算額(B)	増 減 △ (A-B)	摘 要
繰越金	412,045	412,045	0	
個人 会 費	554,500	570,000	△ 15,500	367人
団体 会 費	13,500	22,500	△ 9,000	3団体
寄付金	40,500	5,000	35,500	大野氏他
参加賞	34,100	40,000	△ 5,900	新年懇談会、 藤の沢
売上金	333,980	250,000	83,980	野鳥だよりの、 絵はがき他
雑収入	12,042	455	11,587	北海トラベル 社郵送費他
計	1,400,667	1,300,000	100,667	
会 費 仮受分	78,000	0	78,000	
合 計	1,478,667	1,300,000	178,667	

### (支出の部)

区 分	決算額(A)	予算額(B)	増 減 △ (A-B)	摘 要
印刷費	365,000	350,000	15,000	野鳥だよりの
通信費	195,150	200,000	△ 4,850	だよりの発送、 探鳥会PR他
会議費	101,640	110,000	△ 8,360	幹事会、総会 等
消耗 品 費	21,550	40,000	△ 18,450	コピー、事務 用品
賃 金	11,460	20,000	△ 8,540	だよりの発送、 運搬
報償費	130,960	150,000	△ 19,040	探鳥会手当、 事務所謝礼
雑 費	394,780	430,000	△ 35,220	集合表作成、 障害保険
合 計	1,220,540	1,300,000	△ 79,460	

### (収支の部)

(収入) (支出) (残高)  
1,478,667 - 1,220,540 = 258,127

6. その他

本会の名称の変更について「変更すべきだ」との声が出たが長年会員に親しまれた名称なので、長い時間をかけ検討していくこととなった。

7. 役員選出

役員を次のとおり選出した。会長であった菅野氏、副会長であった谷口氏が退任されました。長い間御苦労様でした。新会長に副会長であった柳沢氏、副会長に代表幹事であった小堀氏、代表幹事に総務幹事代表の白澤氏が選出された。又新幹事に大町欽子氏、大野信明氏が選出された。

会 長 柳沢 信雄

副 会 長 小堀 煌治

監 事 野村 梧郎

大坊 幸七

代表幹事 白澤 昌彦

会計幹事 道川富美子

総務幹事 ○渡辺紀久雄、井上公雄、大町欽子、清水朋子、村野紀雄、柳沢千代子

探鳥幹事 ○井上公雄、大野信明、竹内強、戸津高保、富川徹、中野高明、早瀬広司、堀内進、渡辺俊夫

広報幹事 ○霜村耕一、小堀煌治、竹内強、武沢和義、富川徹

## 昭和63年度予算書

(収入の部)

項 目	前年度 予算額	予算額	摘 要
繰越金	412,045	180,127	
個人会費	570,000	555,000	1,500×370人
団体会費	22,500	18,000	4,500×4団体
寄付金	5,000	5,000	
参加賞	40,000	35,000	新年懇談会、 藤の沢探鳥会
売上金	250,000	265,000	野鳥だより、 絵はがき他
雑収入	455	1,873	利息他
合 計	1,300,000	1,060,000	

(支出の部)

項 目	前年度 予算額	予算額	摘 要
印刷費	350,000	380,000	野鳥だより(4回)、 封筒他
通信費	200,000	260,000	だより発送150,000、 探鳥会PR他
会議費	110,000	120,000	総会・幹事会60,000、 新年懇談会他
消耗品質	40,000	35,000	コピー、事務用品
賃 金	20,000	20,000	野鳥だより発送、 運搬
報償費	150,000	150,000	探鳥会手当、 事務所謝礼他
雑 費	430,000	95,000	障害保険20,000、 写真展他
合 計	1,300,000	1,060,000	

## 札幌市内でイソヒヨドリ観察

イソヒヨドリは、名前のおり磯でしか見られない鳥だと思いつけてきた。私はよく海釣りに出かけるが、5月頃から日本海では、本格的な磯釣りシーズンとなり、この頃に岩場の海岸で見られる鳥は、このイソヒヨドリとハクセキレイぐらいで、イソヒヨドリが近くにきた時はいつもじっくりと見せてもらっている鳥である。

先日、6月2日に仕事で、札幌市の南区を流れる豊平川にかかっている石山大橋手前から右に入る「札幌硬石」という碎石場に行ったところ、ツグミくらいの大きさの鳥がクイの上にとまっている。何だろうと近づくとくちばしにエサをくわえた派手な色彩の鳥で、まさかイソヒ

### 白澤 昌彦

ヨドリがいる訳でもないと思いつつさらに近づいたところ意外にもイソヒヨドリのオスであった。碎石場の人に、この鳥を良く見ることがありますかと聞くと、今頃は良く見ますよとのことなので、営巣しているかも知れないと思い、じっと鳥の動きを見ていると採石した残りの岩山を行ったり来たりしていた。そのうちに、岩山の割れ目に姿を消したので営巣の可能性は、かなり高いと思われた。内陸ではめずらしい例で、私としても初めての経験なので参考までにお知らせします。

〒064 札幌市中央区南17条西18丁目



## 野幌森林公園

63. 2. 14

戸津高保

この5年程、冬には大体週2回の歩くスキーを続けている。もっぱら中島公園か野幌森林

公園で、時には滝野公園まで足を伸ばす。これらのコースでは、どこでもバードウォッチングを兼ねてスベっている。たとえば中島公園の歩くスキーコースでは、園内を流れる鴨々川にマガモ（カルガモ、オナガガモ、ヨシガモなどがまぎれこむこともある。）の群が越冬していて、カモ・ウォッチングの歩くスキーとなる。

歩くスキーを始めた動機の一つには、少しは自分のプロポジションを考えての事もあるのだが、体を動かし、汗をかいた後のビールはおいしいので、見た鳥に乾盃し、見れるはずだった鳥に乾盃しているうちに、プロポジションは益々……。

さて、この日の野幌は、Y夫妻と共に開拓記念館で歩くスキーを貸り、途中エナガやアカゲラを見ながら、大沢口を9時に出発したメンバーを追いかける。よい天気で見の中をスベるのは何とも気持ちいい。

合流後、大沢園地の手前で、樹上にあるエゾリスを見

つけ、皆んなでバードならぬエゾリス・ウォッチング。2月のこの例会では、キタキツネ、ノウサギ、エゾリス、ノネズミなどが雪の上に残した足跡を推理しながら歩くのも楽しいものである。大沢園地で見えたマヒワの群も可愛かった。少し早目の昼食をここで取る。

最近では歩くスキーを楽しむ人が野幌でも増えてきたせいか、コースが堅められているので、歩くスキーやカンジキなしでも、例会への参加が出来るようになってきた。晴 野幌森林公園 9:00~12:30

〔記録された鳥〕トビ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、マヒワ、ウソ、シメ、ハシボソガラス 以上 17種

〔参加者〕榊川保・弘子、豊口肇・美代子、柳沢信雄・千代子、戸津高保・以知子、川守田順吉、香川稔、渡辺勘治、大槻日出、佐々木武己、田辺至、畠山俊雄、富川徹、竹内強、井上公雄 以上 18名

〔担当幹事〕竹内強、井上公雄

〒062 札幌市豊平区旭町4丁目

## 円山の鳥たち

63. 3. 6

泉 勝 統

早朝から何となくそわそわ。天気は素晴らしい晴天。さて探鳥会に行こうか行くまいかと思案。大好きな鳥は見たいが、初顔だと何となく気が重いです。

若い頃からの鳥好きで、夏は針葉樹林、混交林に暗くなるまで入りこみ、冬は山スキーで無茶苦茶な「鳥探し」から始めた私ですが、それも8年前にドクターストップされました。昨年3月退職。小鳥みたさに今年正月から円山・西岡などに通い始めたのですが、探鳥会は初日が何となく気が重いです。半年余りの「生くら生活」が出足を鈍らせるのです。1月以来どうやら20余種の鳥たちと出会い、3月3日は6度目の円山通い。偶然「カワセミの会」で一緒にさせて戴いている矢野さんに出会い今日の探鳥会の事を教えていただいたところでした。

『エエィ、好きな小鳥さんたちがお待ちだよ』と考え重い腰をあげました。

集合場所に近づくと、カラ類たちのお出迎え、森からは、何やら鳥の声も聞えてきます。もうあとはどうともなれと皆さんにご挨拶して仲間入りです。

探鳥では、初心者並みですから幹事の方から離れず、1つずつ確認しようと焦るほど同行の皆さんの落ち着いた観察ぶりが気になり、野帳にメモする余裕もありません。でも親切なご指導で何とか落伍せず終わりました。

私にとっての圧巻は、路傍のカツラの下枝で見たマヒワでした。あんな近くで然も肉眼で、鮮やかな胸の黄色を視認できたのは初めての事だったからです……周囲で今日は大サービスだねという声あり……。

カラスのペリットの話や小鳥の趾跡など、朝の気重さはどこへやら、時間の短かさを感じました。独り歩きも良いが探鳥会はやはり好いなあというのが現在の心境です。

最後に、探鳥後のチェックリストでの確認。帰宅後の楽しみの1つになり有難いことです。第2に、即座に入会申込み。早速いただいた会報の中の探鳥会参加者名簿の欄に「北海道野鳥歳時記」の筆者の方々の名があり驚いたり嬉しがったり……。入会して本当に良かった。

自然と生物が大好きとたっただけの男で、全くの素人



です。鳥見人の方々が植生を熟知されておられることに感銘するとともに、私も基本から勉強しなければと強く反省させられた1日でした。今後よろしくご指導ください。

晴 円山 10:00~11:40

〔記録された種類〕トビ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト

〔参加者〕榊川保・弘子、野口正男・キヨ、玉井龍男・繁美、山田甚一・玲子、志田博明・政子、豊口肇・美代子、丸山薫・かおり、加藤武俊・甲人・久佳、井上公雄・則子、犬飼弘、田中礼子、堀内進、武沢和義、大町欽子、白澤昌彦、泉勝統、富川徹、谷口登志、関口健一、戸津高保、難波茂雄、竹内強、曾根モト、松井昌、佐藤典子、今野弘、川守田順吉、大野信明、佐々木武己 以上39名

〔担当幹事〕富川徹、堀内進

〒002 札幌市北区篠路2条3丁目11-1

## 探鳥会に参加して(ウトナイ湖)

63. 3. 18

佐藤 勇

私は子供の頃から野鳥が大好きで43年、自然に恵まれた当地清田は山有り川有り、野鳥が来る地域です。私は秋になると毎年庭に餌台を取付けます。昨年は11月15日に取付け、スズメを先頭にヒヨドリ、ツグミ希にシジュウカラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、カケス等が来ました。電線には一列にキレンジャク、ヒレンジャクが数羽、数分間雪の降る中を餌も取れず、小さくなって止っていたこともありました。幸に私の家の窓から望遠鏡で、鳥達の行動を毎日見えています。日が長くなる事で、鳥達は春が来たとの事を察して巣作りに、草も木も一日も早く芽ばえ、人も鳥達も春を迎えます。3月18日の待望の探鳥会に参加致し残雪の中を探鳥会の皆さんと、ウトナイ湖畔を探鳥しながら歩きました。純白の白鳥とオナガガモが人に一番慣れて、目の前に集まってパンクズ等を沢山もらって喜んで食べていました。

会員の人が望遠鏡を据えて、私に見て見てとの一言にて喜んで覗き見をしたら、50米位とる遠くの方にヒシクイの大群が休んでいました。中には数羽マガンが混っていました。遠くを見たら、オオワシが威勢良く胸を張り、貫禄充分の姿で飛んでいました。それを見ながら、湖畔を大坊さんと一緒に歩いていたら、すぐ目の前で、青色の標識の輪を首と足に付けたコブハクチョウ1羽が、別なコブハクチョウと2羽で、土の上で死に物狂いの格闘をしていました。それを拝見してびっくりして十分間位見ていましたが、1羽が首の長い所をいじめられその内に2羽共に水面に散解しました。鳥達の今の行動は私にわからないですが、只元気で北帰行して故郷へ帰る事を願いながらネイチャーセンターに行きました。そこで探鳥会の皆さんと笑い、勉強をしながら食べる昼食は楽しくもあり、会話をしながら食後に外に出て、又探鳥をするのも楽しいものでした。湖面を見るとオナガガモが雌1羽に5、6羽の雄が輪をかいて求婚のしぐさを盛ん

にやっていました。ペアを組んだ雄雌は、雄々と泳でいます。左側を良く見るとガン、カモの大集団にて数千羽の大乱舞です。探鳥会員の皆様方も歓喜の声を上げて見ている様です。

野鳥達も残雪の中を日中は周辺の河川にて餌を取り、日中はウトナイ湖で羽を休め、一日も早く無事に故郷へ帰るための体の調整をし、天気の良い日を選んで北帰行し、数羽が集団で故郷シベリヤに帰る事を心の中で願いをしながら帰宅しました。会員の皆様方には今後共に元気で次期の参加者が大勢御参加下される事をお願い致しながら又合う日迄。

〔記録された鳥〕アオサギ、マガン、ヒシクイ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、トビ、オジロワシ、オオワシ、ツルシギ、シロカモメ、カモメ、アカゲラ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ハシブトガラ、シジュウカラ、アトリ、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上30種

〔参加者〕虻川摩美、石谷義一、泉勝統、井上公雄、岩淵ときこ・恵子、大野信明、大町欽子、川守田順吉、小林美智子、佐々木武己、佐藤勇、清水朋子、白澤昌彦・瑠美子・光明・真紀子、杉田範男、大坊幸七、竹内強、武沢和義・佐知子、田中金作・礼子、千田紀子、戸津高保・以知子、長原友美、難波茂雄、西川喜久世、八田美由紀、羽田恭子、平井百合子、船尾恭子、榊川保・弘子、松井昌、松本紀代恵、柳沢信雄・千代子、渡辺加奈子、渡辺照彦、綿谷千冬、渡辺紀久雄 以上44名

〔担当幹事〕戸津高保、渡辺紀久雄

〒004 札幌市豊平区清田7条3丁目16の2

## 野幌

63. 4. 17

品川睦生

今日は朝から天気もよく絶好の探鳥会日和であった。仕事の関係で札幌の生活も約2年たったが、春の野幌森林公園に探鳥会に参加するのは初めてですが、公園内の木々たちもまだ冬の状態であり、一部夏鳥も入っているので鳥を見るのには絶好の時期なのでどんな鳥が見ることが出来るのか楽しみに出席しました。

公園内の道路には一部雪が残ってをり足元はあまりよくなかったが、幸にも天候にめぐまれた探鳥会であった。

印象に残った鳥は今まで木の頂上付近にいるためなかなか見ることの出来なかったキクイタダキを谷間の木にいるのを上から見ることが出来、頭上の黄色部分もはっきりと確認することが出来た。

また花々もエゾエンゴサクを初めフクジュソウが咲きみだれ、ミズバショウの花はもうすこしで満開であり春はすぐそばまで来ているなど感じられた。

ただ残念なことは大沢の池にカヌーが入っており水鳥たちを追い出していた。私はオンドリが飛ぶのを初めて見る事が出来たが、鳥たちの生活圏の中に人間が入っ

ていくのはたいへん残念なことです。

晴 野幌森林公園 9:00~13:20

〔記録された鳥〕オンドリ、マガモ、トビ、ハイタカ、ノスリ、キジバト、ヤマゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、トラツグミ、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、アトリ、カワラヒワ、ウソ、カケス、ハシブトガラス、カイツブリ 以上27種

〔参加者〕山内弘美、岩泉ゆう子、宮田久、武田晴夫、斉藤良子、斉藤京子、長山義雄、田中礼子、野口正男・キヨ、川守田順吉、武沢和義・佐知子、品川睦生、定塚三枝子、羽田恭子、矢野昭二・玲子、富川徹・明美、国本昌秀、浪田良三、柳沢信雄・千代子、高倉まり子、戸津高保・以知子、竹内強、巻勝良、杉田範男、信田朋子、長原友美、森岡弘光、難波茂雄、大浦美佐子、佐々木武己、清水朋子、井上公雄 以上39名

〔担当幹事〕戸津高保、富川徹

札幌市豊平区平岸5条10丁目7-3-204

## 野幌森林公園

63. 4. 24

井上公雄

ぐずついた天気が続いたまま日曜日の朝を迎えた。気候が1ヶ月も逆戻りした様な寒さに強い風、時折小雨と云う芳しからぬ空模様の中での出発になった。

森に入ると忽ち鳥たちが枝から枝へと飛び回り、厳しい冬を生き抜いて、春の歓びを一杯に表すに留鳥のカラ、ゲラ類が盛んに鳴いていた。

先週一寸丈姿を見せたアオジも見違える程上手な囀りを聴せ、派手ではないが美しい姿を中枝に見せビギン達を喜ばせる。

これからが、鳴き声を楽しみ聴き憶えその姿を観察するのに最も良い季節である。

カラ、ゲラ類を中心に様々な鳴き声に誘われ探し当てる度毎に歓声を上げている中に、時間の経つのを忘れてしまう。

ポツポツと紫の小さな花を見せはじめた、エゾエンゴサク、ミズバショウやザゼンソウ、黄色いナニワズの花を見つけては立ち留っていると松林の中でヒガラが忙しく動き回りながら鳴いていた。

四季美コースへ入ると沢の中から此の時季の極めて短い期間丈に限られると云う、キバシリの細い複雑な囀り

に居合せた人達が一斉に神経を集中して聴き入った。

右手に松川の池が見えて来た。一昨年、昨年と此の時季水面に泳ぐ美しいオンドリが見られている。

今年も、の期待で丹念に探したが結果は空しい。繁みの中に秘棲んでいるのだろう。

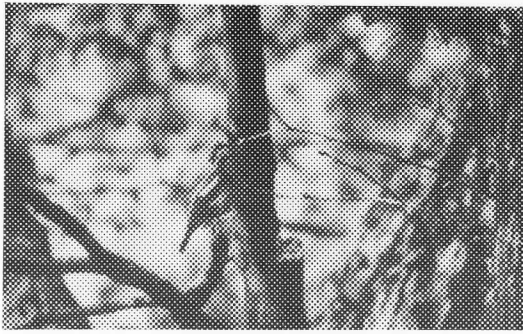
カイツブリの鳴き声が、何回も聴れたもののこれ又お目にかかることは出来ない。

沢のミズバショウを眺め大沢の池が近くなると次第にオンドリへの期待が高揚る。池を見渡す位置から探していると、タイミング良く番のオンドリが、何処からともなく水面に降り美しい姿で泳ぎ回り一同を喜ばせて呉れた。

更に別の3羽も繁みの中を見え隠れ大いに気をよくする。今年も親子の頬笑ましい姿が、訪れる人達を楽しませて呉れることだろう。

いつの間にか小雨も上る雲の切れ間から洩れる薄陽に暖さを求め昼食にした。

食事中も次々に往き交う姿を追いながら昨年カワセミが営巣した崖の方が気にかかり誰とはなしにその辺りが注目的。残念ながら今春その姿を見たと云う情報は未



キビタキ 提供 竹内 強

だない。

園地を出発して間もなくカラ、ゲラ類の混群に足を止められた。笹藪の林の中からルリビタキの地鳴きが聴れ姿を探したが見つからない。ひと回りして、昨秋から鳥の数が少くなっている感じがするのは何故なのだろう。

次に訪れる時には大沢園地の崖にカワセミが戻り、多くの夏鳥たちも姿を見せて呉れること期待する。

曇り 野幌森林公園 9:00~13:40

〔記録された鳥〕アオサギ、オシドリ、トビ、ハイタカ、キジバト、ヤマゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ルリビタキ、トラツグミ、ウグイス、キクイタダキ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、カワラヒワ、ニュウナイスズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カイツブリ 以上27種

〔参加者〕川島幸子、長原友美、浪田良三、岡田康熙・紀子・よしみ、矢野昭二・玲子、柳沢信雄・千代子、高倉まり子、白澤昌彦、榊川保・弘子、戸津高保、香川稔、佐々木武己、大野信明、井上公雄 計19名

〔担当幹事〕井上公雄、大野信明

〒060 札幌市中央区南6西11 共済ハウス

## 野幌森林公園

63. 5. 8

川守田 順吉

2週間振りの探鳥会が待ち遠しかった。ゴールデンウィークには、子供達に相手にされないのを幸に、毎日のように森林公園を歩きまわったのに、いまいち満足感を味わう事ができませんでした。何故、なぜ、なぜ、

いつもと同じコースを歩いていると、突然足もとでバサバサー。「今のは何だ」ウグイスがしきりとさえずるのに姿を見付けられないもどかしさ。

しかし、今日は違いました。「川守田さ〜ん」スコープにルリビタキが入ってますよ」。そうなのです。先生がいけない事には手も足も出ないのです。情ないとは思っているのですが……。それにしても今日の寒さには閉口、最高8.3度最低4.9度。我慢しきれずお昼には内側から暖めてしまいました。昼食後、カワセミがファインダーに入ったらと思いながらカメラをセットした途端にご対面。今日参加の皆さん全員のビノキュラーに入った事と思います。まだ皆さんの名前もよく知りません。仕事だけの生活に、少しでも変化を持たせたいと思っての参加でしたが、鳥達とそして多勢の皆さんとの出逢いを大事にしていきたいと思っています。

〔記録された鳥〕アオサギ、オシドリ、トビ、キジバト、カワセミ、ヤマゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、ルリビタキ、クロツグミ、シロハラ、ヤブサメ、センダイムシクイ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アオジ、カワラヒワ、ウソ、ニュウナイスズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 以上29種

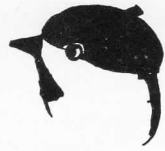
〔参加者〕早瀬広司、船尾恭子、川守田順吉、五十嵐優幸、霜村耕介、羽田恭子、杉田範男、井上公雄、佐藤勇、田中礼子、道川弘・富美子、千葉廣、巻勝良、大浦美佐子、田辺至、佐々木武己、加藤武俊・美知子・甲人・久佳、戸津高保・以知子、野口正男、今野弘、難波茂雄、鈴木市男・道子、柳沢信雄・千代子、谷口登志 以上31名

〔担当幹事〕早瀬広司、戸津高保

〒069 江別市文京台南町28-13



ヒガウ



ハシブトガウ



シジュウカウ



〔鶴川〕

昭和63年 8月28日(日)

昭和63年 9月11日(日)

さわやかな秋空の下 牧場 川辺 河口の干潟でシギ、チドリの観察を行います。

山野、草原の鳥と趣きを異にした水鳥たちで、メダイチドリ、トウネン、ソリハシシギ、タカブシギ等の他ホオアカ、ノビタキ、ワシタカの仲間チュウヒが良く見

られる所です。

J R日高線鶴川駅前 9時10分集合 往きのJRはありません。道南バス 札幌駅前ターミナル そごうデパート1階 8:00発浦河行 鶴川駅 通り下車

― 帰りの JR ―

鶴川―苫小牧―札幌 13:12~13:37 14:31~15:49 (特急)14:41~15:27 14:30~15:03 (急行)15:10~15:56 15:56~17:13

〔野幌森林公園〕 昭和63年10月23日(日)

森の樹々も葉を落しはじめ秋の深まりを感じさせる季節です。南への渡りが遅れている夏鳥と早々に渡って来た冬鳥が入り混り昨年は松川の池、大沢の池でコガモ、マガモ、ヨシカモ、ヒドリガモ、スズガモ等が観察され、計32種類記録されています。今年はどうな鳥に出会えるのでしょうか。 大沢口駐車場入口 午前9時

〔野幌森林公園を歩きましょう〕

昭和63年9月18日(日) 10月2日(日) 大沢口駐車場入口 午前9時集合 いずれの探鳥会も暴風雨でない限り行きます。昼食、筆記用具、観察用具、雨具等をご用意下さい。探鳥会のお問合せは 011-551-6321 井上まで



私たちの探鳥会

―探鳥会17年の記録―

本会が発足して以来、ずっと続けている探鳥会の記録を集大成した「私たちの探鳥会―探鳥会17年の記録」

が、多くの編集スタッフの協力、そしてとりわけ富川徹編集チーフの努力によりまして、この程完成させることができました。立派なものができ、大いに喜んでいただいております。会員の皆様のお手元に1部送付いたしましたので、どうぞご愛用下さい。なお、一般の方々には、次のとおり、販売をいたします。

- 連絡先 〒062 札幌市豊平区里塚245番地86 勝又 孝 電話 011-883-4337
○価格 1冊1,200円。送料250円分合わせてご送金下さい。
○申込み 現金書留でお願い致します。

★ 野鳥写真展開催

昭和63年度の野鳥写真展をパードウィークをはさんで次のとおり2箇所で開催いたしました。作品は下記のとおり20名の方からいただきました。来年度も実施の予定です。素晴らしい写真を撮って、是非応募ください。

○たくぎん自動サービスフロアー 63.5.2~5.16

○三菱信託銀行札幌駅前支店 63.5.17~5.28

○写真提供者

勝又 孝(タンチョウ、タンチョウの親子)、小堀煌治(マガン、ハリモモチュウシャクシギ)、佐藤 勇(版画でヤマセミ、アカショウビン)、佐藤康雄(フクロウ、フクロウの雛)、佐藤幸典(ウミガラス、ウミアイサ)、白川勝雄(シノリガモ、ウミガラス)、白澤昌彦(ノビタキ)、志田博明(ホオジロガモ)、田中金作(シマアオジ、ミヤマホオジロ)、富川 徹(オナガガモ)、長山義雄(アカゲラ、ハクチョウ)、難波茂雄(オオセグロカモメ、シノリガモ)、速水藤二郎(クロガモ、セイタカシギ)、福岡研也(コアカゲラ)、船造淳一(シロハヤブサ vs オジロワシ)、見延誠一(ヒクイナ、タゲリ)、柳沢信雄(アカモズ、ギンザンマシコ)、柳沢千代子(ノゴマ、マナヅル)、山田良造(ギンザンマシコ、クロガモ)、和久雅夫(タンチョウ、オオヒシクイ) 以上35点

・嵐山ビジターセンターについて

当会の会員であり旭川で活躍されている石川悦子さんより嵐山ビジターセンター建設についての協力の呼びかけがありました。くわしくは石川悦子さんにお問い合わせ下さい。TEL 0166-61-0586

〔北海道野鳥愛護会〕年会費 1,500円 (会計年度4月より) 郵便振替 小樽 1-18287

☎060 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル5-6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465